

会議録

|   |                          |
|---|--------------------------|
| 会議の名称   | 令和2年度 第1回加西市総合政策審議会      |
| 開催日時  | 令和2年7月2日（木）午後2時00分～4時45分 |
| 開催場所  | 加西市健康福祉会館（ラヴィかさい）2階研修室   |
| <p>議長の氏名（会長 杉山 武志）</p> <p>出席及び欠席委員の氏名</p> <p>＜出席委員＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上田尾 真      ・大野 聖佳      ・岡 和司      ・岸本 達希      ・木下 勇</li> <li>・久米澤 稔      ・後藤 直樹      ・杉山 武志      ・辻田 聡信      ・谷勝 公代</li> <li>・中野 重美      ・仁科 崇良      ・濱本 泰秀      ・松岡 勝己</li> </ul> <p>＜欠席委員＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高見 千里</li> </ul>   |                          |
| <p>傍聴者の人数</p> <p>一般：3名      報道機関：1</p>  |                          |
| <p>出席した事務局職員の氏名及びその職名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと創造部長 千石 剛</li> <li>・ふるさと創造部人口増政策課長 藤後 靖</li> <li>・ふるさと創造部人口増政策課課長補佐 後藤 伸嘉</li> <li>・ふるさと創造部人口増政策課係長 森山 俊幸</li> <li>・ふるさと創造部人口増政策課係長 岩野 裕之</li> <li>・ふるさと創造部人口増政策課主事 大西 弘晃</li> <li>・ふるさと創造部人口増政策課まちづくり推進員 小山 映</li> </ul>   |                          |
| <p>1 議事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 加西市総合政策審議会の進め方</li> <li>(2) 第6次加西市総合計画の策定状況について</li> <li>(3) 第6次加西市総合計画の基本構想（案）について</li> <li>(4) 第6次加西市総合計画の基本計画 施策体系（案）について</li> <li>(5) 第5次加西市総合計画の評価・検証について</li> </ul> <p>2 会議資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料1～9（事前送付）</li> <li>資料10～11（当日配布）</li> <li>参考資料</li> </ul> <p>3 会議の経過</p> <p>⇒別紙「第1回加西市総合政策審議会の経過」のとおり</p> |                          |

(別紙) 第1回加西市総合政策審議会の経過

| 発言者        | 会議の経過 / 発言内容   |
|------------|--|
| 市長         | <p style="text-align: center;"><b>開 会</b></p> <p><b>1 市長あいさつ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お忙しい中、第1回加西市総合政策審議会にお集りいただき、また委員をお引き受けいただきお礼申し上げます。</li> <li>・第5次総合計画は前市長が諮問をし、答申をいただく直前に選挙が行われた。前市長は、人口の増減に関わらず住みやすい町をつくらうという考え方であったが、私は人口を増やすことが住みやすい町をつくることであると考えている。</li> <li>・学校の在り方検討委員会の答申も前市長が諮問をして私が答申を受けた。途中まで出来上がっていたが、大きく方針が異なる市長となってどうするか。私は審議いただいたことは、加西市がやっていくべきことを一つ一つ皆さんでご検討いただきまとめていただいたことを尊重する。しかし人口については違っていたので、5万人を目指して頑張ろうとして、大いに変わってきた。学校のことも同様で、市長が変わると大きく変わる部分もあるが、やはり積み上げてきたものは何ら無駄にはならない。</li> <li>・皆さんのお知恵を拝借させていただき、基礎になる部分はしっかりと積み上げていくので是非活発なご議論をいただきたい。</li> <li>・将来的に人口規模5万人ということを諦めているわけではなく、すぐにはできないが長期的には5万人という基礎自治体の規模を確保したいという思いをもって進めている。同時にこの審議会では地域創生戦略のご議論もいただくが、策定した戦略は、2060年の目標を36,084人と修正をしている。この9年間の積み上げも含めしっかり取り組んでいくことにしているが、この目標も困難であることには変わりはない。</li> <li>・私は9年間務めてきたが、社会増減について、国も地方創生ということで舵をきられて一極集中の回避を言っておられる。地域創生戦略をつくる中で、いろいろな取り組みを行い、その中では若い女性をターゲットにして人口が増えていく構造の目標にしていたが、それについては見事敗北をしたことを素直に認める。しかしこれは諦められない課題であるので、率直にこの9年間の取り組みは不十分なところがあったと思う。社会増は一昨年37人のプラスとなった。その前は、マイナス93人、マイナス21人からプラス37人になったのでこのままプラスでと思っていたが、去年はマイナス110人ということになってしまった。しかしながら、9年という期間でみると社会減が減ってきたという状況には間違いないと思うので、いろいろな施策を皆さんでご審議いただき、誠実に取り組んできた結果であると思っている。</li> <li>・今後、次の10年間のしっかり取り組むべき具体的課題を皆さんでご議論いただき、取りまとめていただければ嬉しいので、よろしく願います。</li> </ul> |
| 事務局        | <p><b>2 自己紹介</b></p>   |
| 各委員<br>事務局 | <p><b>3 会長及び副会長の選出</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加西市総合政策審議会条例に基づいて委員の互選により会長を選出し、副会長は委員の中から会長が指名することになっているが、会長については事務局からの推薦により委員の皆さまからのご承認をいただいた上で決定させていただくことにご異議はあるか。(異議なし)</li> <li>・会長には平成30年度より加西市元気なまちづくり市民会議の会長としてお世話になっている杉山武志委員にお願いしたいが、ご異議はあるか。(異議なし)</li> <li>・杉山委員に会長をお願いすることとし、会長から副会長のご指名をお願いします。</li> <li>・副会長には濱本泰秀委員にお願いしたいが、ご異議はあるか。(異議なし)</li> </ul>   |
| 各委員<br>会長  | <p>(会長のあいさつ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合計画に携わる会長ということで、非常に重責であると感じている。一方で皆さんと一緒にご議論させていただく中で、重責を果たしてまいりたいと考えている。</li> <li>・総合政策審議会ということで、地域創生戦略という戦略の検討もあるが、まずは総合計画に関する検討を行っていく。先ほどの市長の発言のとおり、総合計画というのは長いスパンの計画で10年間のビジョンを描いていく。この10年間に関してビジョンをこれから方針として描いていく。私の思いも入るかもしれないが、このビジョンというのは決して10年間だけで終わるものではない。大事なものは10年が終わってから先に成果が目</li> </ul>   |

|     |   |
|-----|---|
|     | <p>見えて現れてくる。20年後30年後の加西市の未来がここで描かれていくので非常に重要な計画になる。計画に関して長いようで短い間と思うが皆さんと一緒に侃侃諤諤な議論をさせていただき積極的に方針を定めていきたいと考えている。皆さんからいろいろなご意見をいただき活発に進めていくことをよろしく願います。</p>  |
|     | <p><b>4 加西市総合計画の策定について（諮問）</b><br/>（市長諮問）</p>   |
|     | <p><b>5 議事</b><br/><b>(1) 加西市総合政策審議会の進め方</b><br/>（事務局から説明）</p>  |
| 副会長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・議事録について、要点筆記とはどのような形になるのか。個人的な思いとして議事録はしっかりと作っていただきたい。公開する議事録については要点筆記でも構わない。</li> <li>・冒頭で会長が総合計画は20年後の加西市を決める大事なものなので、活発なご意見をと言われていたが、スケジュールを見ると討論する会議は2回しかない。1回の会議で2時間程度、それで本当に腹を割った話ができるのだろうか。結果的に2回になるということはあるのかもしれないが、前もってスケジュールありきというものがどうなのか、ご検討いただきたい。</li> </ul>  |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・議事録を要点筆記としているのは、会議録の作り方で一語一句間違いないような会議録のとり方と、または事務局の方で要約させていただいたような議事録のとり方がある。決して会議の内容を省略することではなく、言い回しの部分について要約させていただくということで、漏れのないように気をつけたいと思う。</li> <li>・会議の回数の提案としては第1～6回までの会議としているが、勿論皆さまの中で、何か新計画を策定する上でのご議論が継続して続きそうな場合は第7回として追加することは可能であり、会長・委員の皆さまと検討していただきながら決めていきたい。</li> </ul>  |
| 会長  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局から経緯説明が必要であると思うのだが、昨年まで行われていた元気なまちづくり市民会議でも、一部総合計画の検討は報告を受けながらご議論をさせていただいていることについての兼ね合いもある。その延長線上として、この審議会に繋がってきているということも大事である。</li> </ul>   |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合計画の策定作業については昨年度から庁内での検討や策定に向けた準備を進めてきた。この審議会の前身となる組織として、加西市元気なまちづくり市民会議という会議を開催しており、全6回開催の中で委員の皆さまには新計画のご議論等もしていただいていたところである。</li> <li>・去年はどちらかというと策定の初年度となり、まずは市民の方からご意見を集めて、ご意見を聞くというフェーズになっており、アンケートやワークショップを通じて皆さまからご意見をいただくということであった。</li> <li>・2年目の今年度は、いただいたアイデアを基に肉付けをして形にしていくというフェーズにあたっており、この審議会では皆さまにご議論いただきたいと思っている。</li> <li>・審議会は今年度から始まるが、策定作業自体は去年から続いているということを皆さまにご報告させていただきたい。</li> </ul> |
|     | <p><b>(2) 第6次加西市総合計画の策定状況について</b><br/>（事務局から説明）</p>   |
| 会長  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の枠組みの話と昨年からの流れに関して詳細にご説明いただいたが、皆さまからのご意見・ご質問はいかがか。</li> </ul>   |
| 委員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の提言は4件だが非常に少ない。私の周りからは提言を聞くことが非常に多く、いろいろな意見も聞いている。回収方法をもう少し考えるべきではないか。4万人で4件というのは少ないので何か良い方法がないか、そのあたりも検討していただきたい。</li> </ul>   |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・4件というのは4人の提言という意味で、提言の件数としてはもう少しある。できる限り周知するように広報等でPRはさせていただいたつもりではあるが、また今後そのあたりは課題なので検討していきたい。</li> </ul>  |
| 会長  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・書面よりも現実のワールドカフェとかご参加いただいた中でのご意見が活発な加西市という印象が強い。提言は多いものの意外とワークショップへの参加人数が少なかったりして苦戦されている他市の事例もある。そのあたりをどう捉えるのか。加西市はワークショップの参加は多かったというのは事実であると考えられ、その上で提言も多かったらよりよいことである。</li> </ul>  |
| 副会長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今の提言の話もそうであるが、形式論を言わせてもらおう。去年から実施していて、勿論良いことだが、やはり総合計画という重さを行政としてしっかりとやってほしい。本来は市民会議が去年審議会に塗り替わっていただければよかった。そこで委嘱状が出て、市民にこれから2年間かけて計画を作っていくという広報をした上で、いろいろなステップを</li> </ul>   |

|          |   |
|----------|---|
|          | <p>踏んでいく中でそういったことができてくると思う。市民会議を途中から雰囲気的に総合計画に塗り替えてしまったというところが、そもそものやり方、広報としてはよくなかったのではないかと。ここ10年間の話をするので、そこはしっかりと当初から委員としても日当をもらって委員をするわけなので、責任を持って務めなければいけない。そういう意味では行政としても、外へ向かって今から意見を募集するという旗を掲げる機会となる。ほぼ同じメンバーが重なるとはいつても、会議から全く違う性格のものなので、区切りをつけてやるべきだったと思う。次回からはそういうことがないようにお願いしたい。</p>  |
| 会長       | <ul style="list-style-type: none"> <li>先ほどの話で戦略を併せるということも非常に良いことである。5年前の後期計画の時は、先に戦略が決まってしまったので後期の見直しがほぼ戦略に縛られてできなかった。今回終わりを合わすということで、戦略と総合計画を一体感を持つということが非常に大事である。それと同じで、会議体というものは筋を通してやるということが非常に大事なことであると思うので、今後の問題としてそういったことをお願いしたい。</li> </ul>   |
| 事務局      | <ul style="list-style-type: none"> <li>去年から関わっている身としては、ちょっと辛いところではある。おっしゃるとおり、会議の形式の問題というのは大事なことである。私自身も疑問に思っていることは、元気なまちづくり市民会議で行っていた内容を今後、総合政策審議会を終わった後にどうしていけるのか。常に形態はご検討いただいた方がよいのではないかと感じている。</li> <li>これまで総合計画を策定する際には、要綱による総合計画策定審議会という組織を設けて、ご審議をお願いしていた。元気なまちづくり市民会議については、元は加西市地域創生戦略の評価・検証を担う組織としてスタートしたものである。それぞれのスタートの趣旨が違うというところはあるが、今回新たに立ち上げた総合政策審議会については、総合計画の策定、地域創生戦略の策定、さらに評価・検証の部分も総合政策審議会に担っていただくという組織となっている。</li> <li>これまでは総合計画策定審議会は総合計画ができた時点で終了していたが、今後は総合政策審議会という組織で、PDCAのチェックの部分も行ってもらい、それを受けて市はアクションをしていく、修正プランを作っていくという役割をお願いするところになる。策定のみでの審議会ではなく、評価・検証だけでもない、重役とはなるがその両方をお願いする審議会ということで今後とも運営をよろしくお願いしたい。</li> <li>わかった。その方向で検討されているということを確認させていただいた。</li> </ul>  |
| 会長       |   |
| 会長       | <p><b>(3) 第6次加西市総合計画の基本構想(案)について</b><br/>(事務局から説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先ほど市長からの諮問では、人口減少・少子高齢化に関する部分での地域の生活と経済の維持発展のために新たな視点に基づく施策展開が求められている。もう一つは新たな生活スタイルとして、コロナウイルスの対策に関する社会的対応への展開が欠かせないという根本がある。このあたりの対応をどうしていくのかということが大事になってくる。確かにワクチン開発されて投与が進んでいくと解消されるかもしれないが、新しい生活スタイルというのは、仕事では従前のようにはなかなか戻っていかないかと思っている。そのあたりも含めて、総合計画の基本構想に盛り込んでいくのが大事な論点となる。</li> <li>私の方から問題提起をさせていただいたが、様々なご意見を頂戴したい。例えば新しい生活スタイルの観点で、働き方の部分についてご意見を頂戴できればと思う。</li> <li>金融機関の私どもの職場では働く人間が建物に30~40人いる。事前に資料を拝見していたが、何を質問していいのかかわからない状況で、数値目標やそういったものがどんどん出てくると思うので、質問をさせていただきたいのでよろしくお願いする。</li> <li>加西市の地域性として、もちろん密は少なく、非常に感染対策についてもしっかりと対策が取られている。私どもの会社もそうであるが、ポストコロナという言葉は使っておらず、withコロナと言っている。コロナとどう付き合っていくのか、コロナがあること、感染がずっとあるという前提で10年計画を立てている。まさにそういったことであると思うので、感染が明けたらとどうするかという目標ではなく、ずっと10年間いつ起きてもおかしくなく、この段階でもこういったことが起きるということを前提に計画を立てていく必要があると考える。</li> <li>貴重なご意見を頂戴した。</li> </ul> |
| 委員       |   |
| 会長<br>委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>パナソニックの加西市鎮岩工場勤務しているが、パナソニック全体でみると大阪に本社があるので関係するところは大阪にかなり集まっており、公共交通機関で出勤する拠点は、相当出勤をおさえて在宅勤務の推進をされていた。加西市の工場は、ほぼほぼ車通勤が多いものの、間接部分は在宅を推進したが工場では電池を作っているもので、やはり出勤してきてもらわないと物が作れないということがあった。</li> <li>資料にある人手不足について、まさに工場では人手不足でかなり苦しんでいたが、新型コロナウイルスの影響で飲食業がかなりの打撃を受けて雇用が少し減っている中で、工場系</li> </ul>   |

|           |   |
|-----------|---|
| 会長        | <p>に人が流れているという動きがある。今後は解消されていくとは思いますが、そういったことで社会の動きが計画の策定については非常に重要になる。ある程度予測できるようなことであればいいが、コロコロと変わるようなことであれば、少し柔軟にどう反映させていくかというところが非常に重要ではないかと感じた。</p>  |
| 副会長       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・柔軟に対応していかなければいけないというご意見があった。</li> <li>・昨年来から検討してきているデータが直接使いづらくなってきている。計画に反映させていくため、今からの調査というのは現実問題として間に合わないとして、一部取り入れていかなければ、おそらく新しい生活スタイルに馴染んだような計画にはならないのではないかと懸念がある。</li> <li>・先ほど委員がおっしゃったが、withコロナと10年先もそうした状況を踏まえた上で計画をしていくということが求められてきているのではないかと。そのあたりに対する見直しという方向性の再検討をお願いできないかと私も感じていたところである。</li> <li>・基本構想の将来都市像について、前の計画の時には随分と議論したと思っている。これがやはりイメージとともに未来の加西市を一言でいうと何であるかというところで、全てそれが基になって基本構想、基本計画に紐づいていく。当時「ミライナカ」田舎はどうかという話があり、田舎は田舎であるので田舎でいいのではないかとということであった。ただ田舎の中でも特徴を出した形にするために田舎を残そうという話であった。</li> <li>・そもそも「大空に夢がふくらむ」というのは実際に何であるのかということとはよくわからないので、このあたりはもう少し考えなくてはいけないのではないかと。会社でいうと基本理念みたいなことになるので、柱をしっかりとしないと家が建っていかない。そこの説明もしっかりしていただくとよいのではないかと。結局、田舎なのでそのままでも人口が少ないのでソーシャルディスタンスがとれている。そのメリットをどう活かしていくのかということがwithコロナの我々の生き残る道であると思う。</li> <li>・同じ田舎の中でも、都会から田舎へ人が移ろうとしていて、ただ田舎の中でどこの田舎に行くのかという争いがまさに始まっている。将来の加西市の像がキャッチフレーズもそうであるが、謳ったことによって、そういったことを目指している加西市ならば大きくなって住もう、よそから住み移ろうというイメージができるような将来都市像であるべきである。</li> <li>・そこはここの議論を良いということをしかりと説明していただかないと、今回の会議で初めての方もいるのでわからないと思う。そのあたりはもう少し丁寧な説明と議論を進めていかないと、結局、幹が決まっているので、この幹の再確認をしながら枝や葉を作っていくと、会議体としてはわかりにくいのではないかと。時間も限られているとは思いますが、そのあたりを何とかしてもらいたい。</li> </ul> |
| 会長<br>事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大事なご指摘である。今一度、大空の部分についてご説明をお願いしたい。</li> <li>・将来都市像については、策定の経緯として昨年度市民の方々からご意見をいただくワークショップを開催した。その会議の中である程度事務局からの提案もあったが、皆さまからフリーで加西市の将来都市像について考えていただく機会を設けさせていただいて、皆さまからご意見をいただいた。</li> <li>・加西市としては、気球が加西市のシンボルになりつつあるもので、さらに鶴野飛行場があり、空がつなぐまちの事業も行い、「空」というキーワードが加西市の今後の打ち出していくヒントの一つとなっていく。そのキーワードを入れた。</li> <li>・「夢がふくらむ」という部分は、これは気球が膨らむということと掛けているところがあり、そもそも協創のまちというのも加西市として打ち出している内容である。協創という言葉について、市民と自治体がともに協力ではなく、ともに作り上げていくという意味で協創という表現を使っている。加西市は協創まちづくり条例もあり、共に創り上げていながら市民皆様の個々の夢が膨らむような社会にしていきたいという意図があり、この「大空に夢がふくらむ」というフレーズにさせていただいた。</li> <li>・最後の「ミライナカ加西」については、後期基本計画の理念の中から今後も継続して繋げていきたいということで後ろに付けさせていただいたという経緯がある。</li> </ul>  |
| 会長        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・参考資料49ページに将来都市像が書かれているが、ここに今の説明をより一層詳しく、気球が飛んでいるシーンの写真と合わせてより詳しくご説明いただくと、イメージも湧きやすい。</li> </ul>   |
| 副会長       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・先ほど委員もおっしゃっておられたが、このコロナ禍の中で人の移動の仕方というのが、明らかに異なり始めている。そういったところとの関連をどう結びつけていくのかは非常に重要なことである。将来都市像のフレーズが生きていくことになるので検討をお願いしたい。</li> <li>・市が「空」をアピールしたいことはとても伝わってくるが、市民として「空」では生活感をイメージできるキャッチフレーズではないと感じた。何となく「大空に夢がふくらむ」となって、代表的な施策は何かとなると、気球を上げることではないと思</li> </ul>  |

|           |  |
|-----------|--|
| 会長<br>事務局 | <p>う。キャッチフレーズにする以上、何かこれを中心に加西市は今から力を入れていくということがわかるようなものかいいのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これはもう変更はできないのか。完全修正ではなく微修正は可能か。</li> <li>できないこともないが、いろいろと将来都市像については庁内でも議論があった。おっしゃるような今後加西市として進めていくという方針というのを入れるキャッチフレーズも考えたが、やはり他の自治体の総合計画を見ると、似たようなものが多い。</li> <li>加西市らしさがでるような将来都市像にしたいという思いがあり、例えば西脇市であると織物があるので「未来を織りなす」というような表現が使われている。似たような表現の中でも、その自治体らしさというものが表現できるようなニュアンスを入れたいところがあった。その中で加西市は「空」と「気球」が今のシンボルではないかということでこの案にさせていただいた。</li> </ul> |
| 副会長       | <ul style="list-style-type: none"> <li>西脇市は織物を中心に頑張るというメッセージが出ている。それが「気球」であるということは疑問に感じた。もちろんそれが特徴であり、それが具体的施策に紐づいていくということが一番重要であるので、もうひと練りできないかという意見である。</li> </ul>   |
| 会長        | <ul style="list-style-type: none"> <li>西脇市のキャッチフレーズは私も関わっていたので少し複雑な気持ちであるが、確かに随分と苦心はした。播州織に関しても賛否があり、今も打ち出してもいいのかどうか、会議の中で議論があったことは事実である。やはり西脇市らしさというところで播州織に関する織りなすという言葉を選んで設定した経緯があった。一方で将来都市像に関しては、おそらく次世代を担うお子さんに対してとても大事なフレーズである。せっかくPTAの皆さまやこども園の委員の皆さまがいらっしゃるので、ご意見を伺いたい。</li> </ul>  |
| 委員        | <ul style="list-style-type: none"> <li>気球が上がっているのは見たことがあり、実際にどこが上げて誰が乗っているのかということとはわからなかった。最近、日曜日などの休みの日に上がっているのは見ていた。気球に関しては、上がっている姿を見るかもしれないが、住んでいる住民からするとあまり馴染みがないのではないかと。空というのも鶴野飛行場と繋がりがあがると思うが、個人的な意見としてはまだ浸透していないのではないかとというのが現実かと思う。空というのが加西市民としては馴染みがない。</li> </ul>  |
| 委員        | <ul style="list-style-type: none"> <li>こども園として子ども、小学生でもいいが、気球をメインとしてそれに対して子どもと何かプランニングしているかと言われると、気球と紐づけを考えてみるとあまり行事はなかったかと思う。今後メインにするのであれば、教育という場で何かプランニングするというのを紐づけるといいのではないかと思う。</li> </ul>   |
| 会長        | <ul style="list-style-type: none"> <li>現状と今後に関してどうしていくのか、改めて検討してみるというのにも必要かもしれない。完全修正ではなく、もう一度検討してみることは必要ではないか。</li> <li>観光に対する位置づけが、これから日本社会の中でも世界的にも変わってくるのではないかと。従来の2007～2008年頃からの勢いというのではないような感じがしている。むしろ新しい生活スタイルというところが諮問で出てきたということは、より生活に関する何かがあった方がいいのではないかと皆さんのご意見を伺いながら感じていた。このあたりに関してもう一度ご検討いただければと思う。</li> </ul>   |
| 委員        | <ul style="list-style-type: none"> <li>地球環境の部分にSDGsの文言がある。加西市はどのような捉え方で展開が重要とっているのか。17のスローガンがあるといわれているが、その中で環境的持続可能性、社会的持続可能性、経済的持続可能性があり、教育は目標4にあたりとされているし、まちづくりは目標11となっている。そのことを踏まえて、解釈の仕方をもう一度考えなおさないといけないとまで社会的にいわれているが、加西市はどういった捉え方をしているのか教えていただきたい。</li> </ul>   |
| 事務局       | <ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsについては、最近ではいろいろな企業が様々な取り組みをしており、一つのビジネスチャンスと捉えられているところもあつたりする。加西市としても総合計画を作っていく中で、元々は市の行っている施策もカテゴリ分けしていくとSDGsの開発目標の一つであり、169のターゲットのどれかに当てはまるようなことも多い。この施策はこの目標に当てはまっているので推進をしていくという整理をしていこうと考えている。</li> </ul>   |
| 委員<br>事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>考えていただいただけということか。</li> <li>市の施策というものは、基本的には市民サービスの提供というところからの切り口で説明をしてきた。市の取り組みは結果的に国連が提供するSDGsの概念の目標とするターゲットに通ずるものということと併せて見せていきたいということである。市民の方々にも単なるサービスの受け止め方ではなく、それが結果的には世界貢献あるいはSDGsが求めるターゲットのクリアに繋がるものであるということを含めてご理解していただくことで、SDGsの理解を進めることができると考えている。現状ではSDGs自体が、行政部局や一部の大手企業の中でその取組がどのターゲットに通ずるといような形で、示されているところに留まっている現状かと思う。</li> <li>市もそのあたりの理解を深めることは併せてしていく必要があると思いつつも、行</li> </ul>                                 |

|           |   |
|-----------|---|
| 委員<br>会長  | <p>政施策はそれぞれ国連の提唱するSDGsのターゲットに通ずる一つの取り組みであり、一つの道筋ということを理解してもらいながら進めていければと思う。そのあたりはまだ不十分な部分なので、総合計画に示しながら浸透させていく必要があると思っている。</p>  |
| 委員        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・考え方に相違があるようである。</li> <li>・また後ほど詳しくヒアリングをいただき、さらにご議論いただければと思う。経緯としては当初、明石市のように全面的にSDGsを打ち出すか否かという議論をさせていただいたように思うが、最終的にはSDGsをそれほど全面には打ち出さず、しかし必要なことであるという打ち出し方にしていくため、この方法になっている。私の意見であるかもしれないが、情勢がガラッと変わってしまい見通せない状況ではあるが、一方で今の情勢が今後もしばらく続いていくのは間違いない。その中で持続可能性というものをうまく計画書上に表現できないかと思っている。昨年度の2月時点の状況の話しが、今日、目の前のテーマとして挙がってきている。明らかに状況が変わってきているので、そのあたりの変化にどう適応させていくのかということが理解できるような文章構成が求められているかと思う。それはおそらく環境問題や働き方の問題、さらに健康問題が入ってくる。そのあたりをご検討いただければと思う。</li> </ul> |
| 事務局       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果が、参考資料の33ページから10数ページに渡って書かれている。審議会にどう反映されていくのかということに疑問がある。計画の中にすでに盛り込まれているということであれば、それでも構わない。ただ我々がこの文章を、アンケート結果を全て読み込んだ上で、何か議論の中で盛り込んでいくという必要があるれば、それについてもどう考えられているのかを伺いたい。</li> </ul>   |
| 委員<br>事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの調査やワークショップ、さらには市民会議や審議会にいただいたご意見については、各部局にフィードバックをさせていただいている。</li> <li>・次回からこちらの会議で評価・検証作業がある。そちらの意見についても、各部局にフィードバックさせていただき、9～10月頃になるが、枝・葉部分の具体的な施策の検討の材料として各部局に対応いただくようにしたいと思っている。</li> <li>・私たちの審議も含めて今後取り入れていくということか。</li> <li>・そうである。アンケート等でいただいたご意見に対する現時点での回答は難しいところがあるが、次の施策にどのように取り組んでいくかということが、皆さまが期待する回答であると思う。そのタイミングに合わせて反映できるように取り組んでいきたい。</li> </ul>   |
| 会長        | <p><b>(4) 第6次加西市総合計画の基本計画 施策体系(案)について</b><br/>(事務局から説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体系としてはわかりやすくなったのではないと思うが、評価していく時に大事になる。次回には皆さんにも現行の計画で評価をしていただくが、従来のものに比べるとおそらく評価としてはしやすいのではないか。一方でこの体系が市民の皆さんにとってわかりやすいものになっているのかということも大事になってくる。その点も比較的クリアになっている印象を受けている。こうした体系の方向性でよろしいか。(意見なし)</li> </ul>  |
| 会長        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・この件に関してはご意見がないということで、先ほどの議事(3)も含めて皆さんの専門分野からご意見を頂戴したい。加西市としては多文化共生の部分がこれから非常に重要な部分となってくる。その点に関してご意見をいただければと思う。</li> </ul>   |
| 委員        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度から加西市の総合計画に向けてアンケートやワールドカフェといったたくさんの取り組みされている。</li> <li>・事前にいただいた資料の中で衝撃的だったことは、資料5の市民・中高生アンケート調査の結果で「多文化共生の地域づくりは重要だが、あまり外国人と関わりたくない」という回答が半数程度ある」の部分である。アンケートについて質問をさせていただくつもりだったが参考資料を見ると36ページに多文化共生のまちづくりについて外国人と関わりたくないというのは、中高生アンケートではなく市民対象調査ということで市民の方からの回答ということで少し安心した。中高生は外国語などで外国の先生と関わる機会が多い中、中高生も含めたアンケート結果に外国人と関わりたくないということであれば、どういったアプローチをこれからしていけばいいのかと思っていた。外国人と関わりたくない理由については、外国人住民に期待することがイコールと理解させていただければよろしいか。何か理由などあれば教えていただきたい。</li> </ul>  |
| 会長        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・重要なご指摘であった。先ほどの資料5の多文化共生のところは目に留まった。これは評価する部会の中でも多文化共生に関しては、毎年話題として上っている。そこに対する有効な施策を打ち出していくために基本構想の中に、この多文化共生について非常に大事なポイントになると考えている。2020年以降と以前と様相も異なってきているので非常に重要な論点であると考えている。</li> </ul>   |

|           |  |
|-----------|--|
| 事務局<br>会長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>理由については特段申し訳ないが、こちらの資料としてはない。</li> <li>公式、非公式というのはあるかもしれないが、非公式であったとしても意見蓄積をして計画に反映させていくというのはしていただいた方がいいのではないかと。</li> </ul>   |
| 委員        | <ul style="list-style-type: none"> <li>理由によって施策が変わってくるのかと思っている。参考資料28ページに外国人とあまり関わりたくないと回答した多文化共生社会の推進についての加西市の現状であるが、関わりたくないが数割回答していて、認め合える社会を作っていくための交流拠点の整備及びソフト支援が求められていると書かれている。市としてはソフト支援、私たち加西市国際交流協会が行っているソフト支援を主にこれから推進していくのか、または人権推進課で人権を中心に推進していくのかで施策が変わってくるのではと思うがいかがか。市としてはソフト支援をこれからは主な施策としてやっていきたいという認識でよろしいか。</li> </ul>  |
| 事務局       | <ul style="list-style-type: none"> <li>まずはアンケートについて話をさせていただくと、参考資料36ページについては外国人住民に期待することだけだが、設問としては「外国人住民と互いに認め合いともに暮らす社会にしていくために、あなたは外国人住民にどのようなことを期待しますか」というような聞き方であった。高飛車というか日本人側からだけの視点で聞いている部分もある。こういった回答を見ると、生活分野や習慣を日本に合わせるほしいと期待をされている方がたくさんいらっしゃる。そこが相容れない可能性というか元々の認識があり関わりたくない、なるべく関わりたくないという回答がそれなりの数字になっていると考える。そのあたりのヒントもあるかと思うが市の施策として、外国人の方々とともに暮らす社会にしていくために何か必要であるかというような問いかけとして、その次の市の施策として大切なことという回答内容になっている。</li> </ul>   |
| 副会長       | <ul style="list-style-type: none"> <li>人権の話もあったが、まだこれから計画段階ではっきりといつ進められるかということとはわからない。多文化共生という意味合いで外国人労働者の方も集えて、さらに市民との交流ができるようなスペースを作っていければと構想段階ではあり、そういうことから徐々に広めていくべきであると考えている。</li> <li>その件に関連して、商工会議所から見て外国人労働者が多い。安い労働者としてたくさん雇い入れているというところがある。人権もそうであるが、使う側の問題というのめかなりある。そのあたりも人口、社会増が増えたといわれていたが、実際は外国人労働者が増えている。加西市の産業を守るためにも、外国人をどんどん受け入れていくのかということも考えていくことが本来のこういった場であると考えている。</li> <li>関連するのだが、地域創生戦略のデータがデタラメかなと思っている。出生率が2.0とみているが、それを基準に人口増対策としての外国人を見るのか見ないのかを見直すのかどうなのかということになる。</li> </ul> |
| 会長        | <ul style="list-style-type: none"> <li>加西市の場合は人口の見通しに関しては、やや現実路線をいっているという印象である。今の質問に関しては事務局としてはどのように感じているのか。</li> </ul>  |
| 事務局       | <ul style="list-style-type: none"> <li>国の予測値との開きの部分をおっしゃっているのだと思うが、市で推計をする中で、直近の部分は先ほどの市長の話の中にもあったが、社会増減はここ数年間で改善してきた部分の人口移動をみて推計をしている。社会増減が、減少が少なくなってきた中での推計ということで、国の推計よりもより現実に近いものに持っていきたい。</li> <li>出生率については、国が目標として2.0というところに持っているところで、勿論、希望的観測の部分はあるが、現実として加西市としても若い女性が転出してしまっているというところに着眼して、それを食い止め増やしていけるような施策を打っていききたい。産業団地についても、今回のコロナ禍でどうなっていくのか見通しできないところではあるが、着実に事業所が張り付いてくれば人口についても分譲面積に応じて従業員が増えていく。そのうちの2～3割が定着されるということで予測をしてその部分も見込んでの数値になっている。</li> </ul>                                   |
| 副会長       | <ul style="list-style-type: none"> <li>勿論、希望的観測でもいいのだが、現実問題は会社で働いている人の定着率は住んでいる人が上がっていない。働きに加西市には来るが他市に住んでいるということがあり50%を目標にされているが、なかなか厳しいのかと思う。</li> <li>人口がある程度いないとなかなか社会基盤が回らないので、例えば41,000人にするのであれば本来は出生率を向上させるべきところだが、実際には減少傾向が続くことが予想されるので、それを外国人で補うのか、労働者として住んでもらうのかという施策に持っていけないとできない基礎数字としてみて目標が上げればよい。国が2.0にしているからといってバラ色のような2.0の目標を作ってもなかなかしんどいのではないかと。</li> </ul>   |
| 会長        | <ul style="list-style-type: none"> <li>どのように総合計画でフォローをしていくかだと思う。創生戦略は今のご意見の言葉でいうと、バラ色なことを書いているところがあり、それも前々から指摘されているところではあるが、国は修正していかないという方向だと思う。それをどう加西市のオリジナルのビジョンで行う総合計画で動かしていくのが重要だと思う。その点を意識していただきながら進めていただくのがいいのかと思う。先ほどの市長の諮問の</li> </ul>  |

|           |  |
|-----------|--|
|           | <p>中でも、人口減少対策というのはかなり注力されているので、そこに応えられるようなものを検討していく必要があるかと思う。</p>  |
|           | <p><b>(5) 第5次加西市総合計画の評価・検証について</b><br/>(事務局から説明)</p>   |
| 委員        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回初めて参加させていただき、今までの会議を通して思ったことがある。担当分けも含めて今日見させていただいていた会議の進行のやり方というか、市が制作された素案に対して審議会で意見の出し方だが、載っていないような提案や発言はしてもいいのか。またどこまでの発言をしてもいいのか気になった。気にせず何でも発言しても構わないのか。自分自身の立ち位置がちょっとわからないところがある。</li> </ul>  |
| 事務局<br>会長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・勿論ご意見については、思われたことをご自由にご発言いただければと思う。</li> <li>・委員を経験してきた方はご存じのとおり、自由に発言していただき事務局の方から内部的に良い評価が出てきたとしても、やはりダメではないかと2次評価することも結構ある。そこは忌憚のないご意見をいただければと思う。</li> </ul>  |
| 委員        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・去年もやらせてもらいたが、正直言うと言い方が悪いかも知れないが、評価は必要ないのではないかと思う。今日もらった資料で去年のデータの一次評価が出ており、A・B・Cと評価があるが真ん中のB評価が一番多い。これは内容がわからないうえ、余り把握されていないのでこのような結果になるのではないか。これでは非常に残念なので、評価の仕方を変えるということは難しいかもしれないが、何か良い方法を考えてほしい。どうしても仕方がないということであれば、もう少し精度を上げる方法を付け加えるような方法を考えた方が良いのではないか。</li> </ul>  |
| 事務局       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員がおっしゃっているのは、内部評価と外部評価の差についてのことをおっしゃっておられると思う。内部評価でBになっていたら内部のものが評価しているのを外部の委員が、実情がわからない中で極端な評価をしにくいということをおっしゃっておられる。内部評価に対して、実情が本当によくわかっていたらそれはCをつけていても逆に、よくやっているのでBにすべきだという話であると思う。去年もそういったご意見もあった。そこは個人個人の判断の部分で勿論構わない。外部から見ても足りないことがあるということであれば、内部評価が良い評価になっていたとしてもCというご意見があっても構わず、そのための外部評価である。</li> </ul>   |
| 委員        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員の方々はオールマイティーではないので、得意分野と不得意分野がある。不得意分野の評価では発言することが出来ない。発言しないと内部評価と同じになってしまう。</li> </ul>  |
| 会長        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・難しい話であるが、あくまでこの審議会は第三者委員会である。先ほどの委員のご質問でもあったが、確かに難しいが忌憚のない意見が良いというのは、そういうことである。内部の事情をそれほど事前に知らない方がむしろ第三者の目が客観的に評価できるのではないか。一方で難しい問題もあるが、そこは第三者委員会としての意見も必要であると考えている。</li> </ul>  |
| 副会長       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価というものは非常に難しく、会社経営の中でも非常に難しいところである。最終評価の文言が、目標を大きく上回っているところがあるが、この目標というのは、本来は基本計画の目標のことであるのか。デジタル化しては捉えにくいので、こういう表現自体がナンセンスではないか。目標数字があるわけではない。個別の評価の時に、そもそも目標が妥当であったのか、目標が少な過ぎてできたのか、目標が高過ぎてできなかったのか、マトリックス的な評価が内部できているのか、できていないのか。今流行りのKPI（キー・パフォーマンス・インディケーター）なので、結局はこの数値をみると、この政策に対する達成度がわかりやすいという数字をそもそも置いているのか。そういうところを内部でもちゃんと評価をしてもらわないと、数字だけ整えて何%は良い、何%はダメという評価であればする必要はない。その内部評価をしっかりとしていただきたい。今回我々がするのは、ここの評価よりも、この評価をしてこの項目が次のどこにいくのかということ、その具体的な目標はある程度決まっていると思うので、それとの関連性で次の目標のところまで紐づけて説明をしてもらいたい。現在行っている施策は受け継がれるのか、止めるのか、または受け継がれてどう変わったのかということと一緒に評価の場でしていただかないと評価だけをしてもなかなか難しい。</li> </ul> |
| 会長        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・貴重なご意見である。制度的な部分に関しては次期計画の時に評価の方法をより一層検討し直す必要がある。一方で、現行制度で5年目の評価になり変えられない部分もあるかと思う。一貫するものが必要であるので、今回のこの評価に関してはやむを得ないかと思う。次期計画の評価制度設計の時に、そのあたりの議論を可能であれば審議会の中でも議題の中に挙げていただければと思う。より良い方法になっていければと考える。</li> <li>・時間の関係もあり、今回の具体的な評価に関しては委員に事務局から事前に詳細のレ</li> </ul>  |

|           |   |
|-----------|---|
| 事務局<br>委員 | <p>クチャーをお願いしたい。時間が当日まで短く、申し訳ないが事務局からご説明を受けていただき当日をお迎えいただければと考えているので、ご協力をお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部会分けの提案について事務局から説明がある。</li> </ul>   |
| 会長        | <p>(事務局から説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・去年も参加して思ったことは、部会分けをして最後に集まるのだが、やはり他の部会についてなかなか意見が言いづらい。せつかくいろいろなところが集まっていたいので負担にはなるが、自分が担当しない他の部会のところにも意見があれば、事前に意見を集まった時に出し、それも含めて議論いただければと思う。</li> <li>・事務局で一度検討していただき、方法を教えていただきたい。</li> <li>・先ほどの話だが、皆さまで評価・検証にあたっての内容に関して次回までにご提案をいただければと思う。</li> <li>・副会長よりスケジュールの話があったが、今日は諮問があったので初めの30分が必要で、それから2時間ほど経過してきた。これだけのボリュームの内容を本当に6回の会議だけでできるのか。私も不安になった。会議回数と会議時間をもう一度検討していただきたい。評価の部分を除くと正味2回の会議となる。参考として西脇市では、総合計画に係る部分だけでも年間6回の2年間なので合計12回開催していた。2時間予定の会議もオーバーして3時間になったりもしていた。さらに部会も別設定で行われていた。一委員としてもものすごい回数を携わる中で、設定していつているというのが実情であったので、全6回会議というのは少し心もとない。</li> </ul> |
| 副会長       | <p style="text-align: center;"><b>閉 会</b></p> <p>&lt;副会長あいさつ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・皆さまも会議の中でたくさん好きなことを言っていただいたらいいと思う。そういう会議なのでよろしく願います。</li> <li>・総合計画というのは加西市の20～30年後の形をつくる重要なものである。縁があって選ばれたメンバーなので、自分たちのまちのことを一生懸命考えて自分の意見を言って、結果的には実になってくる。</li> <li>・将来の子どもたちの未来のために感じていることをどんどんと言っていただき、それが形として骨になる重要な会議になる。これからもご協力、またお時間もとられるかと思うがお願いをして閉会のあいさつとする。</li> </ul>  |
| 事務局       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・先ほどスケジュールについては検討というご指示をいただいたので、次回もしくは次々回までにスケジュールをお示ししたい。回数が増えることになると皆さまのご負担も増えることになるかと思うが、できる限りご参加をお願いします。</li> </ul>  |